

象牙等の事業者の管理強化
～象牙に係る「特別国際種事業者」の登録制度の創設～

現状と課題

○現在、象牙のカットピースや製品については、個々の譲渡し等を規制する代わりに、象牙の譲渡し等の業務を伴う事業を行うとする者による、届出が義務付けられている(第33条の2)。

○未届の事業者や届出事業者による違反事例等が確認されているが、現在の制度では、事業者が法令に違反する行為を行った場合でも、罰則に従って罰金(50万円)を支払う等すれば事業を継続することができる。

○また、昨年9月～10月に開催された第17回ワシントン条約締約国会議では、アフリカゾウ密猟を抑制するため、「密猟や違法取引に貢献する市場の閉鎖」を勧告する決議が採択。国内市場の適正管理を継続するためにも、より厳正な対応が必要。



象牙の全形牙



象牙の印章

改正内容

象牙のカットピースや製品を扱う事業者の届出制を登録制に

現行の届出制度

特定国際種事業者 → 届出(第33条の2) → 環境省・経済産業省

台帳記載義務(第33条の3)

※罰則: 罰金50万円等(第62条)

必要に応じて指示、立入検査等(第33条の4等)

新たな登録制度

特別国際種事業者 ← 登録申請(第33条の6) → 環境省・経済産業省(事業登録機関)

登録(第33条の6)

事業者を審査(第33条の6)

台帳記載義務(第33条の11)

5年毎の登録の更新制(第33条の10)

所有する全形牙の登録義務(第33条の6)

カットピース等の管理票作成義務(第33条の23)

広告・販売時の登録番号等の表示義務(第33条の11)

事業者登録簿の公開(第33条の8)

※罰則: 懲役5年、罰金500万円等(第57条の2)

罰金1億円等【法人】(第65条第1号)

必要に応じて措置命令、立入検査、登録取消し等(第33条の13等)

象牙の国内市場の適正な管理の推進

このような状況から、今般国会において、現行届出制となっている象牙製品の製造販売事業を登録制(五年ごとの更新制)とし、これまでは規

六月十二日、東京美術倶楽部に経済産業省生活製品課の担当者を引き「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の一部を改正する法律」いわゆる「種の保存法」の一部改正についての説明懇談会を開催した。これは改正案の国会通過、公布を機に、以前より象牙等の管理制度の周知で協力してきた当組合へ同省から今回も周知の依頼があり、それを受けたものであった。

種の保存法における象牙部分の改正の背景を確認すると、次の通りである。

アフリカにおけるゾウの密猟が後を絶たないことから、国際的には規制強化の流れが強まっています。昨九月二十四日～十月四日のワシントン条約締約国会議では、密猟や違法取引につながる象牙の国内市場の閉鎖決議が採択された。同決議は、厳格に管理されているわが国の象牙国内市場の閉鎖を求めるものではないが、密輸や違法取引の根絶に向けた国際的な関心の高まりも踏まえ、日本としても、象牙の国内取引に対してさらに厳格な管理を行っていく考えを表明している。

「種の保存法」改正案が国会を通過、公布 象牙等の事業者管理強化で罰則厳しく

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

刀 剣 界

2017.7.15 No.36

発行人 清水 儀孝
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
http://www.zentosho.com/

第36号編集担当

赤荻 稔 飯田 慶雄
伊波 賢一 大平 岳子 嶋田 伸夫 清水 儀孝
生野 正 瀬下 明 瀬下 昌彦 玉山 真敏
土子 民夫 網取 譲一 土肥 富康 服部 暁治
松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏
編集顧問/深海 信彦

認定事業担当

赤荻 稔 飯田 慶久
伊波 賢一 大平 岳子 大西 康一 木村 義治
佐藤 均 猿田 慎男 嶋田 伸夫 清水 儀孝
生野 正 瀬下 明 土子 民夫 網取 譲一
土肥 豊久 服部 暁治 深海 信彦 松本 義行
冥賀 吉也 持田 具宏 吉井 唯夫

全国刀剣商業協同組合は創立から30年を迎えました。そこで「組合30年の歩み」を企画しています。組合の行事や歴史に関わる写真や資料をお持ちでしたら、ぜひご提供をお願いします。

の通りである。

アフリカにおけるゾウの密猟が後を絶たないことから、国際的には規制強化の流れが強まっています。昨九月二十四日～十月四日のワシントン条約締約国会議では、密猟や違法取引につながる象牙の国内市場の閉鎖決議が採択された。同決議は、厳格に管理されているわが国の象牙国内市場の閉鎖を求めるものではないが、密輸や違法取引の根絶に向けた国際的な関心の高まりも踏まえ、日本としても、象牙の国内取引に対してさらに厳格な管理を行っていく考えを表明している。

このような状況から、今般国会において、現行届出制となっている象牙製品の製造販売事業を登録制(五年ごとの更新制)とし、これまでは規



新法について多くの質問が寄せられた

関係に思える。

しかし、象牙製品等は時代の新旧、大きさに関係ない。しゃれた刀剣外装や白鞘の鳩目に象牙が使われることが皆無とは言えない。特に新法では罰則等も厳しくなることから、これらの製品を扱う方は、現行法においては事業届出を、新法施行後においては事業登録を行う必要がある。さて、表中で強調されているので、お気づきの方もいるであろう。改正の大きな違いに、今までは「届出」をして特定国際種事業者となっていたところ、改正後は「登録申請」の後、審査を通じて初めて特別国際種事業者になる点である。また、届出は無料であったが、登録は登録免許税法の範疇となるため、新規登録申請には九万円がかかる。もちろん新法施行前の今なら届出で済み、無料である。

なお、新法施行後の各種手続きには、別途実費による手数料が必要となる見込みである(現時点で金額は未定)。

折しも六月二十日の『日本経済新聞』夕刊に、象牙の不正取引で古物商が書類送検されたとの記事が掲載されていた。大量取引によるもので、刀剣業界の事例とは少し違うが、取り締まりは強化されるであろう。

六月二日の官報に掲載された新法は公布から一年以内、つまり平成三十年六月一日までに施行されるが、具体的な施行日は今後定められる。

届出を済ませていない事業者は、早めの届出をお勧めします。届出と問い合わせは各経済産業局まで。

(伊波賢一)

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511

http://wakeidou.com/

美術刀剣・刀装小道具商

やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円(郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

柳匠堂

柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八
TEL 〇八六二二三二二三一九
工房 岡山市北区磨屋町七二二
TEL 〇八六二二三二二三二九

金工・刀身彫刻・修理・諸工作式

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六一
西秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 〇四九四二二三三〇六七

大阪刀剣会

吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二七一
TEL 〇六一六六三一二二一〇
FAX 〇六一六六四四一五四六四

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります

刀剣古美術
三峯美術店

第30回通常総会開く 新理事長に清水儀孝氏を選出



第30回組合通常総会の会場風景

新役員一覧

理事長	清水 儀孝	理 事	猿田 慎男
副理事長	伊波 賢一	理 事	生野 正
副理事長	土肥 豊久	理 事	瀬下 明
副理事長	服部 暁治	理 事	松本 義行
専務理事	嶋田 伸夫	理 事	冥賀 吉也
常務理事	佐藤 均	理 事	持田 具宏
常務理事	網取 譲一	理 事	吉井 唯夫
理 事	飯田 慶久	監 事	赤荻 稔
理 事	大平 岳子	監 事	大西 康一
理 事	木村 義治		

全国刀剣商業協同組合は五月十七日(水)、東京美術倶楽部において、第三十回通常総会を開催しました。全国各地から多くの組合員が参集され、定刻の午前十時、司会者の松本義行理事より総会出席状況の報告がありました。組合員総数百七十八名中、出席者六十五名、委任状提出者七十四名、合計百三十九名と過半数に達したため、総会は成立することが告げられました。猿田慎男副理事長の開会の辞に始まり、次いで深海信彦理事長から挨拶がありました。

続いて議長に選任された深海理事長の進行で、直ちに第一号議案から各議案の審議に入りました。今年は第八号議案に役員の改選があり、記名投票の選挙が行われたことによる時間の関係上、第八号議案に先立ち、第九号議案までの審議が行われました。

〔第一号議案〕 平成二十八年度事業報告承認(ならびに平成二十八年度会計報告承認、同監査報告承認)

〔第二号議案〕 平成二十九年度事業計画案

〔第三号議案〕 平成二十九年度収支予算案

〔第四号議案〕 役員報酬の件

〔第五号議案〕 経費の賦課および徴収に関する件

〔第六号議案〕 平成二十九年度借入金残高の最高限度に関する件

〔第七号議案〕 一組合員に対する貸付け、または一組合員の為にする債務保証の最高限度に関する件

〔第八号議案〕 役員改選

〔第九号議案〕 その他

第九号議案まですべて可決され、議事は滞りなく終了したため、第八号議案の役員改選の審議は、議長の指名により清水専務理事が交代して議長に就きました。

選挙管理委員長に町田久雄氏が就き、選挙管理委員・立会人・開票委員等が選任され、議場において委任状を開封後、引き続き別室に設けられた投票所で記名投票に入りました。すべての組合員の投票が終えると、即時開票が厳正に行われました。

その結果、飯田慶久・伊波賢一・大平岳子・木村義治・佐藤均・猿田慎男・嶋田伸夫・清水儀孝・生野正・瀬下明・網取譲一・土肥豊久・服部暁治・松本義行・冥賀吉也・持田具宏・吉井唯夫の各氏を選ばれ、発表されました。

新理事長に選任された方々は別室に移り、理事長選任のために互選の手続きに入り、定款に基づき選挙が行われました。

投票の結果、清水理事が理事長に決まり、総会出席者に報告された第八号議案は承認されました。選任された清水新理事長からは、組合員の皆さまのお力をお借りし、組合の一層の発展に尽力してゆくと決意が語られました。

以上をもって議事は滞りなく終了し、最後に冥賀吉也前副理事長から閉会の辞が述べられました。まだ厳しい経済情勢の中、本総会の議題に上る数字などに真剣に聞き入る組合員の方々が印象的でした。今年は組合創立三十周年の節目に当たり、さつたる飛躍が期待される意義ある第三十回通常総会でした。(嶋田伸夫)

「登録証問題」を考える 9

事例16

今回は、刀匠の立場から新作刀の登録証の問題について考えてみたいと思います。

新作刀の場合は、これまでに取り上げられてきた寸法等の記載ミスなどのほかに、新作刀特有の問題として、登録会場における刀の扱いがあります。

ほとんどの登録会場では、受付から登録証の発行までが流れ作業で行われ、すべての刀が同じルートを通ります。そこでは、錆刀を置いた計測台に研ぎ上がったばかりの新作刀が置かれるということが、当然のように行われています。

また、隣の人へ刀を渡すときに無造作に机の上に置く、といったことも見られます。いつ刀身にヒケや傷がついても、おかしくない状況です。

こういったトラブルを防ぐために、私は研ぎ上げる前の窓開けの

状態で登録を取るようになっていますが、お客さまへの納品やコンクールへの出品の都合で、どうしても研ぎ上げてから登録を取らなければならないときもあります。

もし、納品前の刀に傷がついてしまった場合、再度研ぎに出さなければなりません。

計測台や袱紗などの刀身に直接触れるものは、せめて、研ぎ上がったばかりの刀とそれ以外の刀で別のものを使う、といった改善策を実施していただきたいと強く希望します。

事例17

最近、錆身の脇指を二振、神奈川県在住の五十六歳の男性Aさんから買い取りました。その方から警察による銃刀法の不正運用も疑われるお話を伺いましたので、本人の了解を得てご紹介します。

Aさんは五月の母の日に、八十七歳のお母さんに久しぶりに会う

ため、実家がある青森県に出かけられたそうです。そこで片付けをしていた際、Aさんは亡きお父さんが持っていた脇指を二振発見しました。いずれにも登録証は付いていました。

その後、神奈川県の実家に連絡をとり、所持方法を教えてもらうため地元の神奈川県警N警察署に電話をしました。

まず女性の警察官が電話口に出て、こう話したそうです。「あなたにご兄弟がおいでになるならば相続ということになりますので、警察の問題ではありません。他の手続きもあるでしょうか、専門の担当官につなぎます」と。

代わって電話口に出た生活安全課の担当官の話は驚くべきものでした。「その脇指を所持することはできません。なぜなら、発見場所が警察官が行くなりして写真を撮っていないからです。この件は捜査の対象になります。ですから私たちが預かって処分します」

どのように処分されるのかを尋ねると、「溶鉱炉で溶かします」と言われたそうです。

対応に疑問を抱いたAさんは、すぐにパソコンで銃刀法について調べたそうです。

N警察署は、Aさんが相談を持ちかけた数日後に、実家のお母さんに「脇指について話を聞きたい」と連絡をしたようで、高齢のお母さんは驚いて、「お前、何か事件でも起こしたのか」と電話をしてきたそうです。

N警察署からはその後、実家にもAさん宅にも何の連絡もありません。Aさんは幸い、教育委員会に相談され、法令にのっとり名義変更を行うことができました。

一般の方が善意で警察に相談したとき、いきなり「銃刀法違反です」「刀は溶鉱炉で溶かします」などと言われたら、どうするでしょう。説明が不十分でした、誤解を与えてしまいました、では済まされない重大問題だと思います。

日本の伝統文化財である日本刀を溶鉱炉行きにしかねなかった心ない警察官に憤りを覚え、Aさんと八十七歳のお母さんにぜひとも謝罪をしてもらいたいと願います。(登録証問題研究会)

刀剣伝承館 天田昭次記念館 炎と語り、鉄に聴く… 製精錬一貫の仕事をしる

「刀剣伝承館 天田昭次記念館」は、新潟の奥座敷・月岡温泉の旅館街からほど近く、広大な丘陵地に広がる月岡カリオンパーク内にある。カリオンとは鐘のメロディ・演奏装置のこと、そのタワーが広場の正面に建っている。

当館は平成三年に「カリオン文化館刀剣伝承館」としてオープン。当時は北蒲原郡豊浦町の第三セクターによる運営であったが、合併により新発田市に移管された。天田昭次師は今から四年前の平成二十五年六月二十五日に亡くな

られた。その後、館の内容に検討が行われ、昨年十月に前記に改称となりリニューアル開館した。

一階展示室には昭次師の作品をはじめ、父の貞吉ほか一門の刀剣類・資料が並ぶ。製精錬一貫の作刀を信条とした師だが、自家製鉄の施設も再現されている。

二階は工房の豊月山鍛刀所と思案の場であった生活空間を再現、また千葉工業大学元教授寺島慶一氏らから寄贈された和鉄や刀剣関係の図書も展示し、来館者の関心に添えている。

今年一月、久方ぶりに当地を訪れた。書籍の編纂に使用した天田師や師匠の栗原彦三郎らに関する資料を新発田市に受け入れていただいたので、その整理を兼ねての訪問である。

今後の当館には、展示と併せ、刀剣などに関する情報の蓄積と活用も期待される。

月岡は温泉のほか、近隣に優れたゴルフ場もいくつかある。一度訪ねていただきたいものである。(土子民夫)

■刀剣伝承館 天田昭次記念館
〒959-2338 新潟県新発田市月岡温泉八二七 ☎〇二五四三二一一二一 水曜休館



天田昭次記念館の1階展示室

刀 剣 界



いささか旧聞に属する話題ではあるが、われわれ業界には常に新しく起こり得る話であるのどこに取り上げ、本紙の読者とともに考えてみよう。

昨年十二月、テレビ東京系の「開運!なんでも鑑定団」に持ち込まれた茶碗が、国宝級の、中国南宋時代(十二〜十三世紀・平安時代)の「曜変天目茶碗」であると番組中で鑑定されたことに疑問の声が上がり、新聞・テレビなどで大きく報道されたことは記憶されている人も多いことであろう。筆者は番組を見ておらず、また古陶磁器に関しては全くの門外漢ではあるが、騒動としてマスコミが指摘していることは大きく分けて二つあるように思う。

一つは価格の問題で、鑑定団が国宝級の名品と称え、二千五百万円の値段を付けたことを疑問視するものである。その論拠として示されたのが、昨年九月の米国でのオークションで曜変天目茶碗に次ぐ価値があるとされる油滴天目茶碗が約十二億円で落札された事実があり、しかも曜変は油滴の二倍の価値があるとされているのに、国宝級の名品が二千五百万円である訳がないという論調であった。

このような価格に関するマスコミの言い分は、たとえ一般素人の目線に立った主張とはいえ、物の価値と価格の成立の原理を理解しない浅い見方と言えよう。何となれば国宝級の名品だとしても、国宝に指定されていなければ古陶磁器であっても刀剣であっても、何

のお墨付きのない美術品に二千五百万円の値段を付けるということは、そのモノの価値を最大限に評価した証であり、「国宝なら何億

もする」という話とは全く別のことである。

ましてや、さまざまな思惑と事情が交錯するオークションでの落札価格を引き合いに出して論じるのは、いかなるものであろう。

先ごろ、上杉謙信の居城春日山城を擁する新潟県上越市が、謙信ゆかりの名刀で国宝に指定されている「山鳥毛」と号する太刀の購入を決めたと発表し、市民から寄付を募っている。この太刀は無銘ながら二尺六寸二分で身幅広く、刃文は華やかで、上杉景勝が作らせた当時の拵のまま伝えられた備前一文字派の傑作である。筆者も旧所有者から手に取って拝観する機会に恵まれ、しばし感嘆を禁じ得なかったものである。

この太刀は、上越市が三億二千万円で本年度中に購入する方針であると伝えられるが、果たしてこの太刀と同水準であるのに何の指定もない刀が鑑定に出されたら、鑑定団はいくらの値段を付けるであろうか。重要文化財か国宝級の名刀であることは衆議一致するであろうが、付けられる値段は決して国宝と同等ではないことは先に挙げた曜変天目と同様であろう。

このように、国指定の普通の価値を有するモノと、指定品と同等の価値を有する無指定のモノとの価格を同じ土俵で論じることの無意味さを、報道各社は理解していないのである。

この番組に対する二つ目の指摘は、美術品の鑑定に際しての資格ということであろうか。

鑑定には国家資格があるわけではない。経験を積んだ美術商、研究者団体が検分し、私的に鑑定書を発行したり、作者本人または「数

寄者」と言われる歴代の所持者が収めている箱に「箱書き」を施したりするのが一般的であり、鑑定といっても人によって評価が違いうこともある、と論じている。

過去においても、尾形乾山作とされる作品が栃木県佐野市で発見され、その真贋論争は国会でも議論されることになった。また、鎌倉時代の古瀬戸の傑作として国の重要文化財に指定された壺が後に当世の陶芸家の作と判明し、指定が取り消されたことも報じ、価値を見極めるために研究と議論を重ねる慎重さが重要であると結んでいる。

以上述べたように、マスコミ各社は①評価額の根拠と妥当性、②鑑定する側の資格と力量、について大いなる疑問を呈しているが、そもそも「なんでも鑑定団」は、美術品の評価鑑定という高度かつ難解な問題を軽妙な笑いへと変えて視聴者を楽しませるバラエティーの長寿番組なのである。すなわち、シリアスとユーモアのギャップがたまらない娯楽であり、ここでの評価の信憑性や出演者の資格など、視聴者も番組制作者側もあまり気にしていないのではなからうか。

その証拠に、現職の陶芸家が放送倫理・番組向上機構に内容の検証を求めたが、茶碗が本物かどうかを判定することができないとして審議対象にしないことを決めた。さらに、陶磁史専門の大学教授が「鑑定の根拠を示さないのは公共の電波を使う放送局として無責任と指摘したのに対し」、「鑑定結果は番組独自の見解」として取り合わなかったという。このようにテレビの番組上では①評価の妥当性②鑑定資格は不問、ということになる。

しかし、われわれの実際の売買の場では、「評価の妥当性」はすくさまわが身の信用に降りかかる。そしてそのモノが持つ価値を正確

に査定評価する能力こそが日々の営業の利害に直接関わることになる故に、業者は交換会の場などで常に相場観と鑑定眼を養い、責任ある値段を付けなければならない。すなわち、口から出た言葉が金銭と直結するという厳しい現実

に日々向かい合うことになる。「鑑定資格」については、業界には何の資格も持たない人が大半である。それは、どのような資格にも勝る長い経験と勘、何代にもわたって営業を続けてきた暖簾と信用、そして何よりも本人の人間力と経済力がものを言う業界で、今さら何の資格が必要であろうかという考えによるものである。事実、何の資格がなくても不便を感じていないのが刀剣も含む美術業界の現状である。

しかし、いみじくもマスコミが指摘するように、高価な美術品を査定する人に資格が必要ないというのは、現代社会が資格社会であるにもかかわらず、という言外のニュアンスを含んでいるということであろう。

近い将来には、生前に美術品を処分したいと考えている人が長年の信用と経験を有する業者と、経験も知識も浅い、遺産整理士・生前財産査定士・遺産アドバイザー・古美術査定士(いずれも仮称)との、どちらを選ぶかはわからない。何十年も刀剣や古美術を扱って信用があると自負している業者が、最近設立された遺品整理普及協会(仮称)等を名乗る団体の有資格者に劣る扱いを受ける日が来ようとは、今は誰も想像だにしていけないだろう。

「なんでも鑑定団」のようなテレビの人気番組や報道各社の記事から多くの示唆を得ながら、われわれの業界も発展の糸口を見出さなければならぬ。そのために、長い道のりを経て、刀剣商組合の存在が今あるであろう。

新刀剣博物館の建設進む

刀剣博物館の建設がスケジュール通り順調に進んでいます。建物工事は七月末までに完了、八月に検収を済ませ、九月に引き渡しを受け移転、十月二日から保存刀装具審査受付開始で、事務のスタートを迎えます。

渡しを受けてから、最新のミュージアムに向けた設備構築を行います。LED照明を採用し、温湿度管理に優れた機密性の高い展示ケースを設置。室内環境データを採取して化学物質等が問題ないことを確認します。そして博物館としての厳しい基準検査を経て、一月十九日から初展示となる「新作名刀・研磨コンクール展」の一般公開を迎えます。



上空から見た建設中の新刀剣博物館 (5月20日撮影、日刀保提供)

「関係者の皆さんの協力できわめてスムーズに進んでいます。このオープンを刀剣界発展の一助にすることが公益財団法人日本美術刀剣保存協会の最大の目標です」と取材に応じていただいた柴原勤専務理事は語っていました。(松本義行)

倉吉市が「日本刀のふるさと」を制作

鳥取県倉吉市が制作し、地元の刀剣の歴史を紹介したリーフレット「日本刀のふるさと 伯耆国くらし」が好評を呼んでいる。ゲームをきっかけに全国で女性の日本刀ファンが増えていることを受けてまとめた。伯耆国大原(現在の倉吉市大原周辺)出身の刀工・伯耆安綱の作で、国宝の名物童子切安綱の太刀や、かつて当地でも盛んに操業されていた「たたら製鉄」の

歴史について解説している。リーフレットは、名刀にゆかりのある「日本刀発祥の地」としてPRに活用するといひ、市内観光案内所などで無料配布している。A四判三折りで計六ページ。問い合わせは市観光交流課(☎〇八五八―二二八―一五八)まで。



刀剣・小道具・甲冑武具
目白 **飯田高遠堂**
代表取締役 飯田 慶雄
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本 **松本 富夫 義行**
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣 伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 **泰文堂**
〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16
岩月ビル2階
(株)銀座泰文堂 代表 川島 貴敏
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 **090-8845-2222**
代表者 高島 吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に3号分を無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス（あれば）を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。（事務局）

文化芸術基本法が成立、次は文化省の創設を 全美連など17団体で構成する文化芸術推進フォーラムが提唱

六月十三日、東京プリンスホテルにて「文化芸術振興議員連盟四十年・文化芸術推進フォーラム」創立十五年・文化芸術基本法の制定



500名近い賛同者で賑わった祝賀会

「文化芸術立国」の記念祝賀会が開催された。文化芸術振興議員連盟（河村建夫会長）は、文化政策の抜本的な

改革を目指しつつ、文化芸術の振興を図ることを目的とする超党派の議員連盟。一方の文化芸術推進フォーラム（野村萬議長）は、平成十四年に前年の文化芸術振興基本法成立を支援した芸術諸団体が集い、文化芸術振興基本法推進フォーラムとして発足、翌年に現行の「文化芸術推進フォーラム」と改称した。現在は十七の団体で構成される。文化芸術が社会において果たし得る役割を十二分に発揮していくことを目指し、同法の理念の浸透、啓発、政策提言などの活動を行っている。

連携する両機関は今後、「五輪の年には文化省」をスローガンに文化庁から文化省の創設に向けた活動を加速する。われわれ全国刀剣商業協同組合も微力ではあるが、全美連を通じて役割を果たしていきたい。

祝賀会場の東京プリンスホテル「プロビانسホール」は五百名近い参加者で賑わったが、宮田亮平文化庁長官の中締め挨拶で散会となった。祝賀会に先立って文化芸術推進フォーラムは都内で記者会見し、文化芸術の振興や技能継承を国が支援する文化芸術基本法の早期制定や、「文化省の創設」を訴えた。フォーラム議長で人間国宝の狂言師・野村萬さんは「文化芸術は多くの人が力強く生きていくための心のよりどころだ」と基本法の意義を強調。文化関連省庁の一元化を目指し、関連する政策を一元的に担う「文化省」創設をアピールした。

文化芸術振興基本法の一部を改正する法律案概要

第一 趣旨

- 文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むこと
- 文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用すること

第二 改正の概要

1. 題名等

法律の題名を「文化芸術基本法」に改めるとともに、前文及び目的について所要の整理を行う。

2. 総則

基本理念を改めるとともに、文化芸術団体の役割、関係者相互の連携及び協働並びに税制上の措置を規定する。

（基本理念の改正内容）

- 「年齢、障害の有無又は経済的な状況」にかかわらず等しく文化芸術の鑑賞等ができる環境の整備、②我が国及び「世界」において文化芸術活動が活発に行われる環境を醸成、③児童生徒等に対する文化芸術に関する教育の重要性、④観光、まちづくり、国際交流などの各関連分野における施策との有機的な連携

3. 文化芸術推進基本計画等

政府が定める「文化芸術推進基本計画」、地方公共団体が定める「地方文化芸術推進基本計画」（努力義務）について規定する。

4. 基本的施策

- 芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能の振興について、伝統芸能の例示に「組踊」を追加するとともに、必要な施策の例示に「物品の保存」、「展示」、「知識及び技能の継承」、「芸術祭の開催」などへの支援を追加。
- 生活文化の例示に「食文化」を追加するとともに、生活文化の振興を図る。
- 各地域の文化芸術の振興を通じた地域の振興を図ることとし、必要な施策の例示に「芸術祭への支援」を追加。
- 国際的な交流等の推進に関する必要な施策の例示に「海外における我が国の文化芸術の現地の言語による展示、公開その他の普及への支援」及び「文化芸術に関する国際機関等の業務に従事する人材の養成及び派遣」を追加。
- 芸術家等の養成及び確保に関する必要な施策の例示に国内外における「教育訓練等の人材育成への支援」を追加。

など

5. 文化芸術の推進に係る体制の整備

政府の文化芸術推進会議、地方公共団体の文化芸術推進会議等について規定する。

第三 その他

文化芸術に関する施策を総合的に推進するため、文化庁の機能の拡充等について、その行政組織の在り方等を含め検討を加え、必要な措置を講ずる。

（施行期日は公布の日）

文化芸術に関する施策を総合的に推進するため、文化庁の機能の拡充等について、その行政組織の在り方等を含め検討を加え、必要な措置を講ずる。（清水儀孝）

日刀保との情報交換会開く

全国刀剣商業協同組合では、去る五月十七日の第三十回総会において理事長が深海信彦氏から清水



情報交換会に臨んだ皆さん

儀孝氏に代わり、新執行部が発足したのを受けて、挨拶を兼ね、公益財団法人日本美術刀剣保存協会（酒井忠久会長）幹部との情報交換会を六月十九日、都内の某店で開催しました。

和やかかつ建設的な話で盛り上がった会合を振り返り、飯田元理事長は「組合新聞『刀剣界』などの実績が同協会からの信頼につながり、現在の良好な関係に至ったのです」と感慨深げに語っていました。

刀剣業界のビッグイベントとして、日刀保においては今年十月の両国移転と来年一月の刀剣博物館開館があり、そして当組合においては「刀剣評価鑑定士」認定制度を開始します。

今後とも相互に理解を深め、日

新作名刀展表彰式を開催

「新作名刀展」の表彰式が四月二十八日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会（酒井忠久会長）の四階講堂において開催されました。

出品総数は七十八点、無鑑査を除く出品数は六十六点（作刀の部三十八点、刀身彫の部三点、彫金の部二十五点）でした。

経過報告に続いて酒井会長より主催者挨拶があり、その後、受賞者に対して賞状・賞金・副賞が授与されました。講評は作刀の部・上林恒平氏、刀身彫・彫金の部・橋本晴雄氏からあり、受賞者を代表して高松宮賞受賞の久保善博氏による答辞が述べられました。

新作名刀展は六月十四日（水）から七月六日（木）山形県の致道博物館で、八月四日（金）同月二十七日（日）岡山県の備前長船刀剣博物館で、九月九日（土）同月二十四日（日）埼玉県の川越市立博物館で巡回展示が行われます。

なお、新刀剣博物館では来年一月に「開館特別記念新作名刀展及

刀剣・宝飾品・高級腕時計・ダイヤ
紀伊国屋

代表
松浦孝子

〒372-10812
群馬県伊勢崎市連取町一八三六一
TEL 〇二七〇-二六二七七
FAX 〇二七〇-二六二八八

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
（株）城南堂古美術店

代表
田中勝憲

〒153-10051
東京都目黒区上目黒四一三一〇
TEL 〇三三-三七〇-六七七六
〇九〇-三三〇-八八九六
FAX 〇三三-三七〇-六七七七

本刀の振興とともに目指す協働体制を築くべく新執行部でも努めてまいります。（松本義行）

び刀剣研磨・外装技術発表会入賞作品展」を開催する予定です。

入賞者は以下の通り。

（作刀の部）

〈高松宮記念賞〉久保善博

〈薫山賞〉森國清廣

〈寒山賞〉高見國一

〈協会会長賞〉小宮國天

〈優秀賞〉木村兼光・金田國真・高田義景・小宮陸郎國天・（短刀）安藤広康・新保基平

〈努力賞〉新保基平・加藤慎平・羽岡慎仁・松川清直・高橋恒

厳・北川正忠・山下浩・宮下正吉・（短刀）高羽弘宗・上畠宗泰

（刀身彫の部）

〈優秀賞〉片山重恒・柏木重光

〈努力賞〉入江万里

（彫金の部）

〈優秀賞〉川島義之・柳川清次・長内勝義

〈努力賞〉伊藤恒颯・山下秀文・福興裕毅・武田守夫・大川雅

見・高橋正樹

（生野正）

「刀剣評価鑑定士」試験問題例

当組合が今年度に開始する「刀剣評価鑑定士」認定制度について、さまざまな質問が寄せられています。特に目立つのは、試験問題に関する事柄です。そこで、認定事業委員会が現在検討しつつある問題例の中から20問を取り上げてみました(正解は下段欄外)。

- 【問1】登録後の刀剣類を研究もしくは修理のため、または公衆の観覧に供するため貸付または保管の委託をした場合に限り、所有者変更届をしなくても良い。○か×か。
- 【問2】銃砲または刀剣類を自宅において発見した際は、速やかに所轄の警察署に連絡し、発見したことを報告するが、その際に自宅内の安全な場所に移動させてから電話することが重要である。○か×か。
- 【問3】刀の実際の長さや登録証に記載されている長さが異なる場合、届け出る必要があるが、届け出るのはどこか。次の中から正しいものを選びなさい。
①教育委員会 ②最寄りの警察署
- 【問4】火縄銃を輸出する場合の手続きで正しい記述はどちらかですか。
①文化庁の古美術品輸出監査証明を取得しなければならない
②文化庁の古美術品輸出監査証明と経済産業省の輸出許可を取得しなければならない
- 【問5】買い受けもしくは交換するため、または売却もしくは交換の委託を受けるため、古物商以外の者から古物を受け取ることができる場所はどちらですか。
①古物商の営業所または取引の相手方の住所もしくは居所
②古物商の営業所または取引の相手方が指定した場所
- 【問6】売買もしくは交換のため、または売買もしくは交換の委託により、古物を受け取り、または引き渡したときは、その都度、帳簿等に内容の記載をし、または電磁的方法により記録をしておかなければならない事柄は何ですか。
①相手方の住所、氏名、職業および年齢
②相手方の住所、氏名、職業および電話番号

- 【問7】古物営業法において、防犯三大義務と呼ばれるのは、「取引相手の確認義務」「不正品申告義務」と、あと一つは次のいずれか。
①帳簿等への記録義務 ②コンピュータへの記録義務
- 【問8】「品触れ」を受け取ったときは、その「品触れ」に到達日付を記載し、どれだけの期間保存しなければいけないか。次の中から正しいものを選びなさい。
①1年間 ②6カ月間
- 【問9】絶滅危惧種とされる生き物を保護する条約(ワシントン条約)の対象生物の毛皮・象牙・鮫皮等の一部を使用していても、江戸時代の骨董品であれば、条約違反とならずに輸出は可能である。○か×か。
- 【問10】古物商は訪問購入する際、買取価格等の必要事項を記載した書面を交付する義務がある。また訪問購入に係る売り主(消費者)にはクーリングオフできる制度がある。書面が交付された日から何日以内であればクーリングオフできるか、正しいものを次の中から選びなさい。
①8日 ②5日
- 【問11】刀の長さはどこを計測したものか。次の中から正しいものを選びなさい。
①棟区から切先まで ②茎(中心)の先端から切先まで
- 【問12】刀の切れ味を切り手の名前とともに茎(中心)に入れた銘を意味する言葉として、適切なものは何か。次の中から選びなさい。
①截断銘 ②切り付け銘
- 【問13】次の[]の中から誤りを1つ選びなさい。
8代將軍徳川吉宗から一葉葵紋を賜った刀工には[①一平安代、②主水正正清、③越前康継、④筑前信国重包]がいる。
- 【問14】片落ち互の目を得意とした刀工は誰ですか。次の中から正しいものを選びなさい。
①光忠 ②景光
- 【問15】一般的に関物の帽子の特徴としているのは、次のどれか。次の中から正しいものを選びなさい。
①三作帽子 ②地藏帽子

暑中お見舞い申し上げます

一般社団法人 日本甲冑武具保存研究会

〒162-0801 東京都新宿区山吹町350 鈴康ビル201
☎03-6265-0856 <http://japanese-armor.org/>

- 【問16】江戸新刀の大家長曾祢虎徹の前身は何であったと伝えているか。次の中から正しいものを選びなさい。
①甲冑師 ②鉄砲鍛冶
- 【問17】次の[]の中から正しいものを選びなさい。
後藤本家は初代祐乗に始まり、17代[①光晃、②光則]まで続く金工界の名門である。
- 【問18】古式銃とは「美術品もしくは骨董品として価値のある火縄式銃砲の古式銃砲」で、おおむね何年までわが国に存在したものと定義されているか。次の中から正しいものを選びなさい。
①慶応3年(1867) ②明治45年(1912)
- 【問19】刀匠になるためには、一人の刀匠について()修業する必要がある。さらに文化庁が主催する美術刀剣刀匠技術保存研修会を修了しなければならない。空欄に当てはまる正しい語句を下から選びなさい。
①5年間 ②7年間
- 【問20】折紙には「代金子百枚」などと記されているが、1枚は何両か。次の中から正しいものを選びなさい。
①100両 ②10両

NEWS & TOPICS

隕石でできた「流星刀」
北海道・小樽の龍宮神社に奉納

作らせた榎本武揚のひ孫が寄贈
明治期の政治家で卓創期の小樽の発展に寄与した榎本武揚が建立した龍宮神社(稲穂三)に六月二十日、武揚が隕石から作らせた刀剣「流星刀」が奉納された。代々榎本家に伝わってきたもので、武揚のひ孫の榎本隆充さん(8)が同神社に寄贈した。小樽の関係者は、ゆかりの地で保管できることを歓迎している。

「流星刀」は、富山県で見つかった隕石「白萩隕鉄」を武揚が買取った刀工に頼んで明治三十二年(一八九八)に長刀二本、短刀三本の計五本製作した。今回寄贈されたのは短刀で、刃渡り約十九センチ。隕石に詳しい小樽市総合博物館の大鐘卓哉学芸員によると、白萩隕鉄はほとんどが鉄分できており、これに鋼を加えて刀剣に鍛えたという。「隕石から作られた刀は、日本には流星刀以外に個人所有の一

本があるだけだと思う。非常に貴重な資料でそれが小樽に保管されることは素晴らしい」と話す。ロシアで見た刀剣に憧れ
武揚は官僚として、科学技術に強い関心を持っていた。ロシアに行った際に鉄隕石で作られた刀剣を見て憧れ、研究を進めていたという。五本のうち、長刀は天皇家と東京農大に寄贈。短刀は一本が戦時中行方不明に。今回寄贈されたもの以外に、富山市科学博物館にも一本寄贈されている。
東京に在住する隆充さんは「龍宮神社は武揚と深いゆかりがある。



榎本武揚が隕石から作らせた「流星刀」

アオバ企画(株)
高橋 一

〒130-0012
墨田区大平四一九二ー二三〇八
TEL 〇三ー三六二ー二二二一
FAX 〇三ー三六二ー二二五一
メール aobak@pj8-so-net.ne.jp

流星刀の保管場所として最もふさわしいと感じて寄贈を決めた」と話す。流星刀の存在や、小樽と武揚の関係についても多くの人に知ってもらいたいと考えたという。
《北海道新聞》六月二十二日

黒川古文化研究所(兵庫県西宮市)のコレクションを中心に、泉園博物館の所蔵品を取り混ぜた展示。前半は国宝「短刀 無銘(名物 伏見貞宗)」や重要文化財「太刀 銘 備前国長船住景光」など、平安時代から江戸時代までの名刀約30点を紹介。後半では刀装具などに加え「外装」を中心に、武士が描いた絵画にも焦点を当てている。
「刃は寒にして、拵は花なり」とは江戸後期の武士で国学者、西田直葉の言葉だが、技巧を凝らした刀装具は近世金属工芸の一つの到達点として楽しめる。
戦国武将らは極端に長い刀や大きな鐔、朱塗の鞘などを競い合ったが、徳川幕府は個性的な刀や派手な刀装を禁



後藤一乗「瑞雲透鐔」江戸時代後期

知と粋、表す刀装具



重要文化財 土屋安親「豊干禅師図鐔」江戸時代中期
いずれも黒川古文化研究所



岡本尚茂「鈍太郎図圓首」江戸時代中期

「名刀礼賛 もののふ達の美学」展

じた。しかしそれがあって刀装具を成熟させたように、「武士がどこに美意識を発揮したか」というと、鐔など刀に付属する金具になる」と、「刀装具ワンダーランド」(創元社)の著者で黒川古文化研究所研究員の川見典久さんは解説する。金、銀、銅、鉄などを混ぜ合わせて金属の色を操る技、細かい彫金技術などもさることながら、デザインモチーフや構図も見どころがある。
「豊干禅師図鐔」(重要文化財)は江戸中期に江戸で活躍した鐔師、土屋安親の代表作の一つ。虎を飼い慣らしただことで知られる中国・唐代の伝説的

禅僧、豊干が居眠りする姿は鐔面ではおなじみの画題だ。「禅師のしわやひげの一本一本、顔の凹凸などがリアルに表現されている。禅師の高い徳に感化され、幸せそうに眠る虎の表情も面白い」と川見さん。
刀装具では、武具や戦闘シーンといった勇ましい意匠はやばとされ、動物や和歌、謡曲、狂言、故事などにまつわるモチーフが粋とされた。「江戸時代の武士の教養の高さ、美意識が強く反映されています」。狂言「鈍太郎」の一場面を表現した圓首は、江戸中期に京都で活躍した装剣金工、岡本尚茂の作。目貫とは、刀身に柄を固定

させるためのくぎを覆う金具だが、次第に実用性より装飾の意味合いが強くなったという。
江戸後期から明治初期の名工、後藤一乗の「瑞雲透鐔」は、シンブルたが洗練されたデザイン。鐔に銀を4分の1混ぜた鉄珠のある磨銀を使い、雲間目のぞく月を優美に表現している。極目を細かく打ったおぼろ月の表現、殷差で奥行きを出した雲。妥協のない仕事、豊かな表現力に驚嘆し、武器の一部であることを忘れそうになる。
8月4日まで、月曜休、一般800円。問い合わせは☎03・5777・8600。

組合こよみ (平成29年5~6月)

5月1日 銀座刀剣倶楽部会場において「刀剣評価鑑定士」実行委員会を開催。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・松本理事・持田理事・大平監事・木村監事・土子氏氏氏
8日 銀座長州園において「刀剣界」第35号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・服部常務理事・土子氏氏氏
12日 東京刀剣倶楽部会場において「刀剣評価鑑定士」実行委員会を開催。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・伊波常務理事・松本理事・持田理事・大平監事・木村監事・土子氏氏氏
16日 全刀会会場において「刀剣評価鑑定士」実行委員会を開催。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・飯田理事・嶋田理事・瀬下理事・網取理事・土肥理事・松本理事・持田理事・大平監事・木村監事・土子氏氏氏
17日 東京美術倶楽部において第30回通常総会を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・飯田専務理事・網取常務理事・大平理事・木村理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・持田理事・赤坂監事
17日 東京美術倶楽部において第31期第2回理事会を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・飯田専務理事・網取常務理事・大平理事・木村理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・持田理事・赤坂監事

凄絶極まる水戸藩の回天維新
『義烈千秋天狗党西へ』

伊東潤

新潮文庫 八五三元(税込)

幕末の元治元年(一八六四)、水戸藩の尊王攘夷派が幕命に従わず、那珂湊から京に向かう道の手紙を書いているのだが、まずは水戸藩における派閥を分類する。

水戸藩尊王攘夷派は「天狗党」と呼ばれていた。この呼び名は烈公斉昭が天保の藩政改革を実施した際、下士層から多くの登用を行ったことに危機感を抱いた上士層いわゆる保守門閥派が、下士層に対して使ったのが発端だったが、改革派自ら「天狗党」と称したことで定着した。

天狗党の名はやがて攘夷の即時実行を唱える激派だけの呼び名となり、同じ尊攘派でもより穏当な改革を目指す一派は鎮派と呼ばれるようになる。すなわち、水戸藩士は、過激尊攘派の天狗党、穏健尊攘派の鎮派、保守佐幕の門閥派(後の諸生党)に三分された。



しかも、彼らの主である十代水戸藩主・九代斉昭長男慶篤は江戸に常駐し、名目上は將軍の代理という立場にあったが、長州藩主の毛利敬親(慶親)が「そうせい候」と呼ばれたのと同じく、慶篤は「よかつう様」と陰口をたたかれ、お飾りにすぎない存在だった。

前藩主池田茂正と、同五男の因幡藩主池田慶徳、そして天狗党が最も敬愛し、頼りにもしていた七男の禁裏御守衛総督・一橋慶喜と、水戸藩人脈総出である。

結局、水戸藩での凄絶な派閥争いの結果、天狗党一千百余の軍勢は、那珂湊から京を目指して出発することになる。

天狗党はその道中、ほとんど戦いの日々明け暮れる。幕府から追討令が出ている以上、当然のことはいえ、やはり辛い道中である。だが天狗党は強かった。下妻合戦・下仁田戦争・和田峰合戦と、見事な作戦で勝ち続ける。

作者の伊東潤氏はこれらの戦いをよく調べて書いているので、内容はぜひお読みいただきたい。

天狗党の旅は見事なものだったという。

歩兵数百、総勢合わせて千余人、見る人驚かざるはなし」と記している。

一行は葵の紋の吹き流しを先頭に、「魁」「赤心」「竜」「報国」「攘夷」「日本海」「奉勅」などと書かれた幟を押し立て、太鼓を叩き、法螺貝を吹き、行進した。

しかしながら、越前敦賀の手前に来たとき、何と一橋慶喜が追討総督として出張つてきていることを知り、加賀藩前田家に全員の身柄を預けることになる。加賀藩は天狗党を武士として遇してくれたのだが、幕閣から一橋慶喜に対しての工作の結果、慶喜は天狗党を見捨ててしまう。

こうなると、もはや天狗党は賊徒として処分されるしかない。また、水戸においては、諸生党により天狗党の家族までもが獄舎につながれ、劣悪な環境の中でそのほとんどが獄死した。諸生党はさらに鎮派の幹部らも処刑し、安心しきっていた。

しかし、敦賀では彼ら諸生党にとって意外な過誤が起こっていた。

どういう訳か、天狗党総大将・武田耕雲斎の孫である金次郎が十八歳という当時としては十分な成人年齢であったにもかかわらず、遠島刑に

なっていた。この刑は、一年ほどで朝廷により正式に流罪有免される。

鳥羽伏見の戦の結果、幕府の崩壊が決定的となった慶応四年(一八六八)正月、朝廷から水戸藩の「除奸反正」の勅許を賜った金次郎が官軍として江戸城に入り、朝廷の命を藩主慶篤に伝えた。

立場は一瞬にして入れ替わった。今度は諸生党がやられる番である。諸生党の面々が討ち取られたり、また処刑されたりした。

こうして水戸藩の幕末は終わった。水戸藩にとつての「回天維新」とは、血で血を洗う殺戮の歴史でしかなかった。天保十年(一八三九)の水戸藩家臣団名簿には三千四百四十九人の名が記されている。しかし慶応四年には、それが八百九十二人に減っている。

幕末、薩摩・長州とともに表に立っていた水戸は、こうして表舞台から姿を消した。

なお、義烈とは「義を守る心の堅いこと」を言うが、本書の題名「義烈千秋」には、義公光圀と烈公斉昭の志は永く続くとの意味が込められている。(持田具宏)

今日、俺の行き先は台東区竜泉。ベテラン刀剣商、嶋村喜一氏を訪ねる。

藤沢市編で小野氏を訪ねたときも今日も、白いジャージを着用。研師の阿部一紀氏とロードレーサーに乗り始めたころの二十代に、小柄な大型新人ゼッケン54番シャリー・モチ選手(仏)と同じだ、と思いついた。今じゃドライバーから視認してもらいたい一心で派手なジャージを着るが、当時派手な色に腰が引け選んだこれは、ツール・ド・フランス、ヴェルター・デ・エスパーニャと並ぶ欧州三大レースの一つジロ・デ・イタリアの新人賞ジャージであることを後に知る。そう、俺もかつてはこの業界の新人だった。この世界の入り口として知人に紹介してもらったのが一条兼良氏の自宅で開かれていた浅草協同交換会。小さな競売の元の形「自宅訪問会」のスタイルを残す会だった。そこで初めて会った人の中に嶋村氏はいた。

氏は、山口良平氏、帳場に島和子女史……そんな刀剣界の黎明期を支えた皆さんに温かく迎えられ期待された俺は、新人賞をいただいたも同然だった。しかし、その後の俺は鳴かず飛ばず……。

浅草協同交換会是一条氏亡き後は嶋村氏が代表となり、料亭「浜清」で開催。その後、足立区曙町自治会館に場所を移したが、少し残念な幕の引き方となった。

嶋村氏は現在八十二歳。平成二十一年に発覚した病気と向き合う日々だが、その姿を銀座刀剣倶楽部の交換会などで拝見できる。製靴会社勤務からこの世界に転職した関係で、遅咲きの苦勞をされたものの、誰もが気付く通り氏のまなざしは温かい。

そして俺にはこんな忠告をしてきている。「ジョーちゃん、交換会に出た甲冑から目が離れないよ。それじゃテコられるのは当たり前だよ」。

俺もやがてこんな年配者になれたらうれしいな。でも、鳴かず飛ばすだけで。

ジロの新人賞ジャージ、何だか爺さんのメリヤス肌着みたいで今となっては情けないが、あのころのことを忘れ難く、長袖・半袖とも大切にしている。二十代の服が五十八歳の今でも着られるって体型が変わらないのと、物持ちが良いのとで二重にすごいだろ！でも、俺は今でも鳴かず飛ばす。(網取譲一)

■嶋村美術店 11-11000
012 台東区竜泉三二七
一二 〇三三八七三四
二一九

刀文協のコンクールが開幕

公益財団法人日本刀文化振興協会(本阿彌光洲理事長)では「日本刀の匠たち」第八回新作日本刀研磨外装刀職技術展覧会」に先

立って、授賞式と懇親会を五月二十七日、長野県・坂城町中心市街地コミュニティセンター(坂城町鉄の展示館隣接)で開催した。

同展は八月二十七日(日)まで坂城町鉄の展示館(〒389-0660 1 長野県埴科郡坂城町大字坂城六三三二一 〇二六八八二一 一二八)で開かれている(月曜休館。ただし祝日の場合は翌日)。週末にはさまざまなイベントが計画されている。問い合わせ・申し込みは同館まで。

入賞者は下記の通り。

(作刀部門)

〈経済産業大臣賞〉 上山輝平
〈日本刀文化振興協会会長賞〉 久保善博

〈金賞〉 第一席・明珍宗裕、第二席・根津秀平、第三席・河内一平
〈銀賞〉 第一席・佐々木胤成、第二席・松川清直
〈銅賞〉 第一席・満足弘次
(刀身彫刻部門)

〈長野県知事賞〉 木下宗憲
(研磨部門)

〈日本刀文化振興協会会長賞〉 森井鐵太郎

〈信濃毎日新聞社賞〉 玉置城二
〈金賞〉 第一席・本阿彌雅夫、第二席・阿部聡一郎、第三席本阿彌毅、第四席・倉島一、第五席

・菅野聖也、第六席・藤川二朗
〈銀賞〉 第一席・小野敬博・第二席・小川和比古、第三席・米川好次
〈銅賞〉 第一席・関山和進、第二席・水田吉政
(刀装部門)

刀装員〈坂城町教育長賞〉 ケビン・アダムス
〈金賞〉 第二席・福興裕毅
〈銀賞〉 第一席・長内勝義、第二席・川上登

〈金賞〉 第二席・森井敦史
〈銀賞〉 第一席・古川和幸
柄巻き 〈金賞〉 第一席・笹原喜幸
〈銀賞〉 第一席・平井重治
鞘塗り 〈銀賞〉 第一席・小山光秀
拵 〈銀賞〉 第一席・森井敦史
(銅賞) 第一席・桑野敏朗
(第二回特別公開部門 "Sword Oshigata Art")
〈優秀賞〉 第一席・長津祐介、第二席・三浦弘貴、第三席・玉置城二
〈佳作〉 第一席・阿部聡一郎、第二席・関山和進



嶋村喜一さんと樋口一葉記念館前にて

■嶋村美術店 11-11000
012 台東区竜泉三二七
一二 〇三三八七三四
二一九



東京都台東区 編

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、**記事を募集しています**。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。



しのぎ刀剣交換会の会場風景

毎月十一日の定例会には県内外から訪れる約三十名の会員により、古い時代から現代に至るまでのさまざまな品物を持ち寄られ、活発な交換会が行われています。ここではローカル色が強い品が出品されることもあり、他の交換会では見ることができないお宝に出合うこともあります。

また、毎月の最終水曜日には道具の会が開催されます。定例会とは少々異なる顔ぶれ

祝30周年！しのぎ刀剣交換会

交換会紹介

埼玉県内で唯一の刀剣市場である「しのぎ刀剣交換会」は、本年六月で三十周年を迎えます。



鹿児島神宮の楼門前にて

神宮の大鳥居前で落ち合う。六年前の東日本大震災で崩落した御影石製の鳥居は、樹齢六百年の境内のご神木で見事に蘇っていた。

早速、私の案内で参拝し、神域を一回りした。

鹿児島神宮と国宝師御霊

旅のつれづれに 3

今回この記事を書くに当たり、再確認のために鹿嶋を訪ねた。本紙編集委員の二人、持田具宏さんと土子民夫さんとの同行取材である。持田さんは初めての鹿島神宮にぜひ参拝したいということ

だったが、土子さんは隣の行方市出身である。少年の一時期を当地で過ごした私の幼なじみの一人と高校で同級という奇縁もあり、共通の知人も数人いる。

私の家から鹿嶋までは車で一時間四十分、二人は東京駅から高速バスで二時間の旅だ。

漆塗りの上に平文や金銅透かし彫りの金具で装飾を施した古様な技法によっている。

作刀に関しては「常陸風土記」にある地元若松浜の砂鉄を用いたとも伝承されている。

次は、もう一つの目的である師御霊との対面である。宝物館に入ると、それは往時のまま鎮座していた。久しぶりの対面である。師御霊は鹿児島神宮に伝えられる神剣で、別称を「国平剣」と言い、国宝に指定されている。指定名称は「直刀・黒漆平文大刀拵 附刀唐櫃」である。

長大な直刀で、柄・鞘を含めた全長は2.71m、刀長は2.24mで製作年代は奈良時代から平安時代と言われている。現存する伝世品(出土品ではない)の刀剣の中では古例の二であり、刃長の点では最大の作品とされる。外装は、黒漆塗りの上に平文や金銅透かし彫りの金具で装飾を施した古様な技法によっている。

しかし、である。神宮にはなはだ失礼だが、展示・保存環境が悪すぎる。建物も古いが、空調もない。私の記憶にあった源頼朝寄進の梅竹時絵鞍(重要文化財)などとは見る影もなく、雑品に紛れてなかなか見つからなかったほどである。是が非でも一度、国立博物館のようなところで展示してもらうことを願う。

その後、土子さんの友人である錦織孝一鹿嶋市長に連絡を取り、市役所に表敬訪問した。そこで市長から、公約でもある博物館建設の計画を聞いた。市長も神宮宝物館の現状を憂えておられたが、その熱意にわれわれも共感し、微力ながら可能な協力を惜しまない旨お伝えしてきた。

その晩、共通の友人らと席を共にし、昔話に華を咲かせたのは言うまでもない。

鹿嶋が生んだ剣聖塚原ト伝についても触れたかったが、紙数が尽きた。またの機会としたい。

(赤荻 稔)

の会員から、骨董品・小道具類・絵画・古書と多種多様な品々が持ち寄られます。

「しのぎ刀剣交換会」の主催者である大沢都志夫さんは、刀剣界の目利きと名高い方です。お店の経営と市場の運営のほかに、日本刀剣保存会の審査員・副理事長の重職を長年務めてこられました。また近年まで、地元で開催される日本刀勉強会にボランティアで講師を務められるなど、日本刀の啓蒙活動にも余念がありません。

大沢さんは今年で七十五歳になりますが、元気いっぱい。「刀が好きで始めた仕事です。天性の仕事と思いい、楽しみながら頑張っています。」と話されています。

ここは、小川和紙の里としてユネスコの無形文化遺産に指定された有名な地域です(細川紙)。交

通手段は、東武東上線の小川町駅からタクシーで十五分。車で来られるお客さまには広い駐車スペースが確保されています。

会場の近くに名湯の玉川温泉があり、一風呂浴びて行楽気分で来会される方もいるそうです。地元生産農家の野菜直売所でお土産を仕入れるのもよし。お酒好きには地酒の「晴霞」がおすすめのこと。「愛される交換会を目指しています。組合員の皆さまのお越しを心よりお待ちしております」と、大沢さんからの伝言がありました。

大沢さん、これからも健康でまします活躍されることを切に願っています。

(生野 正)

■連絡先 しのぎ刀剣美術館 〒355-0343 埼玉県比企郡ときがわ町五明二六七五 ☎〇四九三六五〇二八二

刀職紹介

第23回

〈研師〉玉置城二さん



玉置城二さんは昭和四十八年、奈良県吉野郡十津川村の生まれ。そこは勤皇の志厚い十津川郷氏の古里である。地元の高校を卒業後、縁あって研師の修業に入った。平成十二年に独立し、京都上賀

茂神社の近くで開業、結婚を機に現在地に移った。

同十三年から公益財団法人日本刀文化振興協会主催の「新作日本刀研磨外装刀職技術展覧会」に出品し、連続して金賞を受賞してきたが、今回は特賞・信濃毎日新聞社賞受賞の栄に輝いた。

さまざまな刀に出会い、また先人の研磨の仕事に直接触れることが一番の感動と幸であると言語。研師を自らの天職と信じ、精進を重ねておられることが、ありありとわかる。

「刀以外で趣味はないのですか」と伺ったところ、しばらく思索の後、「強いて言うなら、押形を採ること、砥石を収集することくらいでしょうか」と。頭の中にはやはり研ぎのことしかない。

京都は天然砥石の産地として昔から名高い。日本刀用としては使われてこなかった天然砥石でも試してみ、研究することがとても楽しいらしい。そのコレクションとともに、尋常でないうんちくをしばし傾けていただいた。

この京都には古利などに錆びた状態の刀剣が多く存在しており、筆者も京都へ出店してからしばしば目にしてきた。玉置さんとは、「これから神社仏閣などの文化財修復を行っていきましよう！」と意気投合。既に、とある神社の文化財修復のプロジェクトを進行中です。

(玉山貞敏)

■連絡先 〒606-0024 京都市左京区岩倉花園町五四一九四 ☎〇七五七二二二七三五



はるかに続く千里浜なぎさドライブウェイ

以前と比べ、東京からは格段に便利になりました。七尾は金沢からさらに一時間半、能登に入った場所にあるのですが、人口六万人弱のとても長閑な所です。

金沢から七尾に向かう途中に羽咋があり、ここに今回お勤めのスポット「千里浜なぎさドライブウェイ」があります。

千里浜は遠浅の海で、全長約八キロの日本海に面した海水浴場です。私が子供のころは、家から水着を着用し、浮き輪も膨らませて、自家用車で出かけ、車はそのまま海水浴場の砂浜をばまで乗り入れ、好きな場所に駐車し、着いてすぐ海に入るという状態でした。

当時はそれが当たり前と思っていましたが、車で走れる砂浜があり、そのすぐそばに駐車もできる所など国内にはほとんどないこと

ふるさと自慢

第20回

●石川県・千里浜なぎさドライブウェイ

夕景の中、波打ち際を走る

大平 岳子

日本刀の

江戸屋

名品・名刀を販売

店主 小暮 昇一

〒529-1315 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1 TEL 0749-4212736 携帯 090-316217641 http://www.goushuya-nihontou.com

イベント・レポート

東京美術倶楽部で刀剣の公開講座を開催

東京美術倶楽部では年間を通じて美術に関わるさまざまな催しが行われているが、その一つに公開



渡邊講師による刀剣講座

美術講座がある。著名な講師陣を迎え、優れた美術品を併せて展観することで、美術愛好家を育てていこうというもので、今までに計十六講座が行われている。

五月二十日と六月二十四日は、佐野美術館の渡邊妙子館長が担当同館より多くの名刀を用意されて刀剣講座が開催された。

「日本刀の時代的変遷」と題した初回には、日本刀の起源から形状の変遷、佩刀の作法など、しばしば初心者から質問される基本的な内容が中心で、講演後にも熱心な質問が多く寄せられていた。

かつて筆者が渡邊先生に初心者向けの講演での留意点についてアドバイスを求めた際、「初心者ほど

本当の名刀を見せてあげなければいけない」とご助言を頂いたが、当日の鑑賞力は重要美術品をはじめ、名刀の数々が用意され壮観なものであった。

東京美術倶楽部では過去に、刀剣を題材に美術商向けの勉強会として本阿彌光遜氏、近年では本阿彌光洲氏と伊波賢一氏による講習会が行われたことはあるが、一般愛好家向けの刀剣講座が行われたのは、長い東京美術倶楽部の歴史においても初めてのことであろう。これは背景の一つに昨今の刀剣ブームもあるかもしれないが、何より長年にわたる諸先輩方の尽力の賜物であり、当業界が誇るべき一步となったのではないだろうか。(飯田慶雄)

刀剣インターネットコミュニティに参加して

片山重恒氏(刀身彫刻師)と澤田康則氏(公益財団法人日本美術刀剣保存協会理事)の企画で、次世代の刀剣愛好家を発掘し、育成する刀剣インターネットコミュニティ(通称「刀ネコ会」)大阪オフ会に参加してきました。



とにかく明るい刀ネコ会

会場は大阪歴史博物館の講堂で、受付を済ませて入場すると、中には既に大勢の参加者が。特に女性や学生の若い世代が多く、明るい雰囲気印象的でした。

鑑賞会とはとても自由な発想で、参加者の所蔵品の持ち寄りの場でもあった。会場では全身押形の実演や体験、刀剣研磨や刀身彫刻の実演など、刀職ならではの充実した企画も行われていた。

この会の参加者はインターネットを通じて刀剣に興味を持った人たちが多く、刀剣に興味を持っても、実際にはどこに行けば刀が見られるのか、どこで学べばいいのかわからない。そんな人たちの受け皿として、勉強の場であり、交流の場となっているのが「刀ネコ」なのである。

初めて刀剣を手に取り鑑賞する方には、初心者マナー講座の参加を義務づけている。そして、その後は刀剣の見どころをスライドショーで懇切に解説する。また、刀剣鑑賞の際にはマスク着用、刀装

好評だった日本初の「日本刀押形展」

岐阜県博物館(関市)のマイミュージウムギャラリーで四月二十二日から六月十八日まで、日本美



実物と押形が対比できて好評だった

術刀剣保存協会岐阜県支部創設六十周年記念行事として「日本刀押形展」が企画された。展示された刀剣押形は近藤邦治支部長によるもので、押形三十八点とその元になった刀剣十五振がガラスケースを飾った。

額装・掛け軸にされた押形は、太刀・刀・脇指・短刀・槍・剣のすべてのスタイルが網羅され、刀は藤末鎌初古備前国綱の太刀をはじめ、新刀期を代表する庸徹の脇指(緒方竹虎旧蔵)、岐阜県初の無鑑査認定を受けた尾川兼國刀匠の高松宮賞受賞作まで幅広く

研師・高岩節夫氏が故郷で講演

島根県安来市広瀬町出身で東京都葛飾区指定無形文化財保持者の研師、高岩節夫氏が六月四日、故郷の広瀬交流センターで「研師が語る日本刀の魅力」と題し講演を行った。会場には定員に倍する聴



実物を示して講演する高岩さん

衆が訪れ、講演に耳を傾けていた。講演に先立って地元新聞社の取材に応じ、たたら製鉄が盛んだった鳥取・島根両県の日本刀を活用した地域振興などについても語った。「お守り刀の需要もあり、持っていることで心の支えになる。日本刀ファンが多い外国からの観光客向けにも活用できるのではないかと提案した。

高岩さんは研師であった父幸吉さんの影響で研師を目指し、人間国宝の藤代松雄氏に入門、二十歳代で独立し、昭和五十五年に日本美術刀剣保存協会の研磨技術発表会無鑑査に認定された。平成十八年には英文版の「THE ART OF JAPANESE SWORD POLISHING」を出版した。

展示された。

押形と刀剣の実物が並べられたこの展示スタイルは、どんな説明よりも深く刀剣を理解することができたという声が相次いだ。最近各地の刀剣展で会場を賑わせているという刀剣女子にも好評だったようだ。岐阜県知事・副知事・関市長ほか県の重鎮の方々もお見え

になり、「このような展覧会は初めてのことだが、素晴らしい」と絶賛されていた。約二万人の入場者は県博の一年分に相当するとのこと、好評により、十一月には長崎市での巡回展示が予定されている(日本美術刀剣保存協会長崎支部主催)。(舟山堂・稲留修一)

「刀匠月山貞利展―魂を鍛つ―」に参加して

六月十四日から二十日まで、日本橋高島屋において「刀匠月山貞利展」が三年ぶりに開催された。平成二年の故月山貞一との親子展から数え九回目を迎える今展覧会は、月山家伝統の綾杉肌や濃密な刀身彫刻を施した作品、初の貞利・貞伸合作の作品など、サブタイトル「魂を鍛つ」の通り、貞利渾身の最近作約三十点に加え、水戸徳川家ご下命の同家に伝わる「兎手杓」太刀の再現作も特別展示されました。

切れることなく女性の方が来場され、単眼ルーペを片手にじっくりと何周も会場を回り、地鉄や刃文についてのご質問に答えるこちらにも熱くなってしまうことも少なくありませんでした。もちろん熱心に鑑賞される男性の方も多く、昨今の日本刀への関心の高さを大いに感じた次第です。

十七日に開催された師のギャラリートークにも本当に多数のご参加を頂き、「兎手杓」再現作の解説、月山鍛冶の歴史や作品について約四十分余り、終始会場は盛り上がり、今までにない熱気に満ちたものとなりました。

連日会場には多くのお客さまのご来場をいただきましたが、特に今回は多くの刀剣女子の方々の鑑賞姿勢に、あらためて驚きを感じました。平日のアフター5は途



月山氏のトークに熱心に聞き入る来場者

からは「現代刀の展示を見る機会が少ないので、大変良かったです」「お刀に値段が付いているので、また違った角度で見ることができた。将来ぜひ一振持ってみたい」などのお言葉も頂き、現代刀普及の良い機会となったと思います。

数多くの美術工芸品を扱う百貨店で、日本刀の展示される機会はまだまだ少なく、今後の日本刀の地位向上や、私自身も個展を将来の目標として頑張っていきたいと思っています。ご来場いただいた皆さま、展示関係各位にはこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。(月山貞伸)

催事情報

■大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前 4 - 1 - 32 ☎06-6946-5728
http://www.mus-his.city.osaka.jp/

大相撲と日本刀

江戸時代、横綱をはじめとする強豪力士の中には、大名に抱えられ、帯刀を許された者がいました。プロマイドに相当する力士の錦絵には、帯刀姿の力士を描くものが数多く存在します。大相撲の世界において日本刀は、力士の地位や権威を示す象徴としての役割を果たしており、その中には、歴代の横綱たちが土俵入りに使用した太刀のように、当時の名だたる刀匠によって製作されたものがありました。

本展は、歴代の名横綱が所持した太刀など、大相撲にゆかりのある日本刀にスポットを当てながら、刀匠の技術や刀剣美に加えて、これまで紹介される機会の少なかった、相撲における刀剣の意味や、横綱の歴史に着目し、相撲文化の新たな一面を知っていただきます。併せて、横綱の化粧まわしや相撲絵など相撲関係資料を紹介するとともに、大阪歴史博物館が収集してきた大阪相撲に関する資料も展示し、公益財団法人日本相撲協会の源流の一つである大阪

ゆかりの相撲集団の歴史についても触れる機会とします。

会期：7月8日(土)～8月28日(月) 火曜休館。ただし、8月15日は開館。



■泉屋博古館

〒106-0032 東京都港区六本木 1 - 5 - 1 ☎03-5777-8600 (ハローダイヤル)
https://www.sen-oku.or.jp/tokyo/

名刀礼賛—もののふ達の美学

愛刀家の間ではよく知られながら、これまでほとんど一般に見る機会が少なかった珠玉の名刀コレクション、この度東京で堂々公開！兵庫県西宮市にある黒川古文化研究所は、東洋古書画や考古遺物を多数所蔵し、その研究で知られていますが、日本刀についても国宝・重文を含む一大コレクションを有しています。その中から、国宝「短刀 無銘（名物伏見貞宗）」や重文「太刀 銘 国光」、重文「太刀 銘 備前国長船住景光」など平安から江戸時代までに作られた約30口の名刀を紹介します。また、刀装具や武士の描いた絵画も併せ展示し、武士たちが育んできた美意識についても探ります。

〈主な展示品〉(予定)
国宝 短刀 無銘(名物伏見貞宗)
国宝 短刀 銘 来国俊
重要文化財 刀 無銘(伝長谷部国重)
重要文化財 太刀 銘 備前国長船住景光

重要文化財 太刀 銘 国光
重要文化財 土屋安親 豊干禅師図鐔
岡本尚茂 鈍太郎図目貫
後藤一乗 瑞雲透鐔
会期：6月1日(木)～8月4日(金) 月曜休館。ただし7月17日は開館、翌日休館



■熱田神宮宝物館

〒456-8585 愛知県名古屋市中熱田区神宮 1 - 1 - 1 ☎052-671-0852
https://www.atsutajingu.or.jp/jingu/bunkaden/treasure_guide.html

熱田神宮刀剣並びに技術奉納奉賛会二十周年記念展

本紙第31号(平成28年9月15日発行)でも取り上げたが、今年も熱田神宮において刀剣並びに技術奉納が執り行われる。7月8～10日は刀剣鍛錬、8月20日は研磨等技術奉納である。

今年は奉納の時期と合わせて、当会20周年を記念した企画展が、熱田神宮宝物館との共催展として開催される運びとなった。同展は、これまでに当会の奉納行事において奉納された刀剣類を一堂に展示するとともに、歴代の奉納刀匠・技術奉納者が最近製作した作品をそれぞれ1口展示することとなり、当会の歩みを振り返り、各奉仕者の研鑽の成果を見ることのできるまたとない機会である。

会期：6月30日(金)～7月25日(火) (大平将広)



■森記念秋水美術館

〒930-0066 富山市千石町 1 - 3 - 6 ☎076-425-5700
http://www.mori-shusui-museum.jp/

日本刀物語

昭和8年、「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」は、日本の美術品が海外へ流出することを防止する目的で制定されました。その後、昭和25年の文化財保護法の施行によって「重要美術品」の認定は廃止されましたが、いまもってなお認定された美術品は高く評価されています。

今回の特別展では、「重要美術品」に認定されている日本刀のみ約60振を一堂に会し、認定の経緯を伝えるとともに、その作品の持つ力量や作風、歴史などの物語を通して日本刀の多彩で多面的な魅力を紹介します。

会期：7月15日(土)～9月24日(日)

■江戸東京博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網 1 - 4 - 1 ☎03-3626-9974
https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/

2017年NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」特別展 井伊直虎から直政へ

戦国時代、男の名で家督を継いだ「おんな城主」井伊直虎の波乱に満ちた生涯を軸に、駿河の今川、甲斐の武田、三河の徳川と3つの大国に囲まれた遠江の領主井伊氏が、繰り返される謀略や戦いの中でどのように乱世を生き延びたのか、同時代に生きた戦国武将や周辺の人物を通して浮き彫りにします。

また、直虎に養育され、徳川家康の家臣となった井伊直政は、小牧・長久手の戦や関ヶ原の戦などで武功を上げ、後に「徳川四天王」と称されるほど、家康の天下統一事業に重要な役割を果たしました。

直政の彦根藩井伊家創設に至る道程を、井伊家に受け継がれた貴重な美術品・古文書などから紹介します。

会期：7月4日(火)～8月6日(日) 休館7月10日(月)・18日(火)・24日(月)・31日(月)

江戸東京博物館の特別展会場を訪れた井伊直虎役の柴咲コウさん。「刀が大好きで、つい見入ってしまった」と語っていた。



脇指 勝光宗光合作草壁打ち(重要文化財、東照宮所蔵)

阿蘇神社に奉納

名刀「蚩丸」オマージュ

阿蘇神社(熊本県阿蘇市)の宮司を務める阿蘇家の家玉で、戦後の混乱期に行方不明になった名刀「蚩丸」を刀工二人が「復活」させた。資料を検証し、伝説に近づきたいと鍛えた一振り。刀剣ブームを追い風にクラウドファンディングで資金調達した。模写を意味する「写し」として、十七日に奉納する。

蚩丸は鎌倉時代末期の名工、来国俊の作で刃渡り三尺三寸(約一メートル)。阿蘇家の阿蘇惟澄は一三三六年の多々良浜(現福岡市)の合戦で足利義氏を迎え撃ち、この愛刀で奮戦した。眠りに落ちると、夢に無數の蚩丸が現れて刀を覆った。目が覚めたとき、刃こぼれだらけだった蚩丸は、美しい姿に戻っていた」との伝説が残っている。



復元に挑んだのは、福岡市出身の福岡裕晃さん(三十三)と、大分県竹田市出身の関根宏明さん(三十三)。同「阿蘇」人は岐阜県関市で室町時代に工、来国俊の作で刃渡り三尺三寸(約一メートル)。阿蘇家の阿蘇惟澄は一三三六年の多々良浜(現福岡市)の合戦で足利義氏を迎え撃ち、この愛刀で奮戦した。眠りに落ちると、夢に無數の蚩丸が現れて刀を覆った。目が覚めたとき、刃こぼれだらけだった蚩丸は、美しい姿に戻っていた」との伝説が残っている。

「阿蘇神社は熊本県阿蘇市の宮司を務める阿蘇家の家玉で、戦後の混乱期に行方不明になった名刀「蚩丸」を刀工二人が「復活」させた。資料を検証し、伝説に近づきたいと鍛えた一振り。刀剣ブームを追い風にクラウドファンディングで資金調達した。模写を意味する「写し」として、十七日に奉納する。

蚩丸は鎌倉時代末期の名工、来国俊の作で刃渡り三尺三寸(約一メートル)。阿蘇家の阿蘇惟澄は一三三六年の多々良浜(現福岡市)の合戦で足利義氏を迎え撃ち、この愛刀で奮戦した。眠りに落ちると、夢に無數の蚩丸が現れて刀を覆った。目が覚めたとき、刃こぼれだらけだった蚩丸は、美しい姿に戻っていた」との伝説が残っている。

復元に挑んだのは、福岡市出身の福岡裕晃さん(三十三)と、大分県竹田市出身の関根宏明さん(三十三)。同「阿蘇」人は岐阜県関市で室町時代に工、来国俊の作で刃渡り三尺三寸(約一メートル)。阿蘇家の阿蘇惟澄は一三三六年の多々良浜(現福岡市)の合戦で足利義氏を迎え撃ち、この愛刀で奮戦した。眠りに落ちると、夢に無數の蚩丸が現れて刀を覆った。目が覚めたとき、刃こぼれだらけだった蚩丸は、美しい姿に戻っていた」との伝説が残っている。

